

日本記者クラブ会報

第338号
1998年
(平成10年)
4月10日発行

東京都千代田区幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル100-0011
◎社団法人 日本記者クラブ
☎〇三三三三〇三二七三二(代)

会費収入減のマイナス予算

事業収入拡大で認識一致

九八年度予算が三月二十五日の第五十一回総会で決まりました。

収支予算は昨年より実質一千二百五十八万一千円減の総額四億二千七百七十六万四千円のマイナス予算となりました。

その最大の原因は、会費収入の落ち込みで、約四百五十万円の減少です。昨年四月、六年ぶりに会費を平均六・六七%アップしていただいたばかり。この改定で二〇〇〇年まで持たせることになっていのです。現状のままでは、とても持ちこたえられません。

値上げが引き金になって、会員数、特に個人A会員の減少が影響したからにはありません。

A会員は、九〇年四月に七百一人であったのが、バブルの崩壊で年々減り続け、この八年間で百二十八人も減少しているのです。現在の会費で計算すると、約七百万円に相当します。

法人賛助会員の減少も響いています。八六年二月の七十八社を最高に、その後退会した法人数の補充を認めてこなかったこともあって、今年三月末現在で五十七社。

最高時に比べ、単純計算で約一千三百万円強の減少なのです。一方、事業収入では、リノベーションで七、八月の二カ月間、レストランなどの営業ができないため、約七百万円の減少になりました。

とところで、ワシントンのナショナル・プレスクラブ報告は今回の(下)で終了します。当クラブ活性化にとって参考になる点が多く、二月の総務委員会でも改めて報告しました。その中で主に①若手の現役記者に親近感を持ってもらうにはどうしたらよいか②会費以外の事業収入を拡大するためにはどんな取り組みが妥当か③について意見交換されました。その結果、加藤理事長はじめ各委員とも、前向きに対応すべきだとの認識で一致。

関係各委員会で議論を重ねて具体的な提言としてまとめてもらい、その上で総務委員会としての結論を出すことになりました。

すでに施設運営委員会では、事業収入の拡大を図るため、部屋代一五%引きの宴会割引制を採用、四月から前倒しで実施しました。関連して、事務局はプレスセンターとアラスカの協力を得てこれも

四月から①月々金曜は十階のレストラン「アラスカ」内の個室二室をクラブの小会議室並みの部屋代・飲食代で会員が利用できる②同じく夜に限り、会員料金でレストラン「アラスカ」を貸し切り利用できる③など、会員の利用スペースの実質的な拡大を図りました。詳細は事務局にお問い合わせください。

時事通信社解説委員会顧問の藤原作弥さんが日銀副総裁に就任されました。誠におめでたく、そして、心から「苦労さま」と申しあげます。藤原さんは、当クラブの企画委員として足かけ十年にわたり、経済・金融関係のゲストの選定から交渉、司会役、会報の原稿まで、一手にこなしていたいただきました。調べて驚きましたが司会は通算八十四回もお願ひしていただきました。ご活躍をお祈りいたします。

三月のゲストは、公賓のシッパリー・ニュージールランド首相やパリンピック長野大会のアルペンスキーで金、銀、銅三つのメダルを獲得した大日方邦子さんなど十人でした。

(専務理事 那部 吉正)

ク ラ ブ ゲ ス ト

ジェニー・シップリー ニュージーランド首相



3.10(火)記者会見 司会 藤村邦苗副理事長
通訳 森由美子 出席 116人

「戦車隊長」とか「香水付きのスチームローラー」という勇ましい呼び名もあるというからどんなにかつい女性かと思っていたら、シップリー首相(四六)は大柄な身体を赤紫色のスーツに包み、大きな銀色のイヤリングをつけてさっそうと登場した。事務局の女性が「シックでエレガントね」と嘆息したほどである。オープニング・スピーチも用意された原稿をしりぞけ、対日関係やニュージーランドの構造改革について簡潔にきれいな英語でコメントした。圧巻は、最後の質問で政治的信条

を聞かれた時の回答だった。「たとえその時には不人気になっても、国のために正しいことなら断行しなければならぬ」

社会福祉相、保健相として七年間、激しい反対の矢面に立ちながら予算を大幅カットして改革を推進してきた「ニュージーランド版サッチャー女史」ならではの一言である。

日本では近年ついぞお目にかかったことのない本物の指導者ではないか、という印象を受けた。

社会福祉などを重視する連立相手のニュージーランド・ファースト党をどう御するかが今後、首相として大成するかどうかのカギである。

日本でも大きく報道されたオークランド中心部の停電については「市全域のような印象を与えたが、二キロ四方の限定された地域で、気候や技術的な問題が重なったユニークな状況で起きた。ほぼ復旧済みだが、政府は公式調査を実施、原因究明に当たる」と述べた。

読売新聞社調査研究本部主任研究員 大津 彬裕

ゲンナジー・ウドベンコ 国連総会議長



3.11(水)記者会見 司会 住川治人委員
通訳 森由美子 出席 59人

外務省は国連総会議長を賓客として招いている。ウドベンコ氏もそのケース。クラブでの会見も恒例になっている。当然話題は国連である。議長は「冷戦が終わって世界が変わったのに、国連は変わっていない」と改革の必要性を説いた。

日本の常任理事国入りが議論的になっている時ならよかったが、安保理改革がとん挫している今、これでは関心を呼ばない。イラク危機も一段落しており、盛り上がりを欠くやりとりとなった。やはり会見にはタイミングが大切だ。

旧ソ連外交官で、今はウクライナ外相でもある。ニュースがないなら冗談でサービス、というわけではあるまいが、コソボ問題が出ると「こ

の件については情報がない。私に情報を送ってこないウクライナの国連大使を、さっそくけん責しよう。しかし、このことは新聞に書きいちゃいかんよ」と笑いを誘った。

唯一踏み込んだのはPKOへの貢献問題だった。国連は日本に何を求めるのか、という質問に「お金を出してほしい」とズバリ。国連の台所の苦しさに思わず本音が出たのかも知れない。だが、こうはつきり言われると、やや鼻白む。

かつてソ連の役人は内容のない演説を長々とやるのが得意だった。失礼ながら記者会見中に、そのことを思い出してしまった。

記者クラブではゲストに記帳を求め、ウドベンコ氏は会見が始まる前、そのアルバムページの埋め尽くすほどの長文を書いた。

だが、中身は今回が当クラブでの三度目の会見で、前二回と違って総会議長としてのものである、という事実と、感謝の言葉だけだった。

朝日新聞社編集局次長

住川 治人

ク ラ ブ ゲ ス ト

齋藤憲司 国立国会図書館調査立法考査局行政法務課主査



3.13 (金) 研究会
「公務員倫理法」(1)
司会 神志名泰裕委員
出席 74人

昔、事件記者だった僕は刑事さんを「接待」したことがある。金品を贈与したわけではない。酒場に誘ったわけでもない。彼の息子の家庭教師を無料で引き受けたのである。息子の学業成績は若干上がり、喜んで刑事さんは二度ほど「極秘情報」を漏らしてくれた。この「接待」で「国家公務員の秘匿義務違反」を誘発した僕は「反社会的」なのか——なんてことを考えつつ「倫理法」の第一人者・齋藤さんの話を聞いた。齋藤さんは当方に「耳の痛い」ことから切り出した。例えば、某紙が大学教授に頼んだ「アメリカ政府倫理法」の記事。教授氏は「五〇五条の膨大な法律」と解説しているが、齋藤氏によれば「欠番もあり、実際は二二条」である。新聞の認識はその程度、という痛烈な指摘だが、僕

に言わせれば「よくぞ言ってくれた」という思いである。

独自の主張を持たず「権威ある人間に解説させれば、これでよし」という昨今のマスコミ状況。独自の主張を持つためには勉強をしなくてはならないし、本当の権威を探さなくてはいけない。その努力を忘れていくから、新聞から「勢い」が消える。

政治家の法律作りの知恵袋である齋藤さんに「公務員倫理法ができればワイロはなくなるか？」という質問。「行政の権力集中をなくし、情報公開をしなくては……」。齋藤さんはアートディレクターでもあり、グラフィックデザイナーでもある。そうした趣味人？だから、自由に政党の勘違いを指摘する度胸がある。その意味でも、講師の選定が大成功——と企画委員に感謝する。

と、同時に「ジャーナリストの使用と倫理」について、真剣に話し合わねばならぬ時節なのか、と思ひ詰める僕だった。

毎日新聞社社会部編集委員

牧 太郎

鳩山 由紀夫 民主党幹事長



3.18 (水) 食会
司会 菱山郁朗委員 川戸恵子委員
出席 124人

「新『民主党』結成合意後という良いタイミングにお招きをいただいたことに深く感謝いたします。民主党鳩山由紀夫幹事長の第一声は弾んでいた。『四月中に新党結成』への道筋をつけた安ど感からであろう。」

鳩山氏は、新党の首脳人事について、「最大政党(の民主党)が譲るべきところを譲らないとうまくいかない。代表も幹事長もという姿勢は望ましくない」と述べ、(党首は菅直人氏とすることを前提に)幹事長ポストは他党から起用すべきとの考えを明らかにした。また首相候補については、「公明は参院選は独自で戦うとしている。政党連合を組む相手がいないのに、首相候補を決めても現実味がない」と述

べ、参院選後の政局流動化をにらんで、田公明党勢力との政党連合への意欲を表明。首相候補という切り札は場合によっては、次の衆院選直前まで、隠し玉として温存、参院選前に候補を決める必要はないとの姿勢を鮮明にした。鳩山氏の発言で特に印象に残ったのは、「吞舟之魚不遊支流」という故吉田茂直筆の色紙を松野頼三氏から檄を込めて贈られた話のくだりだ。

「舟を丸のみにするほどの大きな魚は小さな川にはすまない」。転じて、大人物は小さなことにはこだわらず、志を高く、大きなことで勝負する」との古代中国の思想家列子が残したものである。鳩山氏は、この言葉にいたく感激したようだ。祖父故一郎氏の宿命のライバルから、政権奪還への極意をたたき込まれたからか。新民主党結成と保守合同を重ね合わせ、闘志を新たに武者震いさせたのか。自由民主党初代総裁だった祖父の姿に思いをはせ、何か万感胸に迫るものがあつたからに違いない。

調査室長

菱山 郁朗

ク ラ ブ ゲ ス ト

高坂知節 東北大学医学部教授



3.18 (水) 研究会
「花粉症」
司会 浅井恒雄 委員
出席 64人

花粉の舞う季節を迎え、「花粉症」の人にはうっとうしい日が続く。そこで東北大学医学部の高坂知節（たかさか・ともり）耳鼻咽喉科教授をお招きして研究会を開いた。

この時季になるとスギ花粉情報が伝えられ、マスコミも予防から治療まで話題にしているが、根本的な治療法が伝わってこない。花粉症はアレルギーによって五十種類もあり、スギだけでなくヒノキ、ブタクサ、ヨモギなどでも発症する。スギ花粉の飛散に続いてはヒノキ花粉で症状が持続する。

日本では杉が造林され、終戦後には十八万ヘクタールにも達した。昔は良い材質を得るため枝切り、間伐をし手をかけたが、輸入材の増えたいまは手もかけず、成熟期にある杉から大量に花粉が飛ぶ。研究の結果

これがティールセルエンジンの排出する窒素酸化物と関連しており、花粉症を増やす原因になっていることが分かったという。排気ガスと花粉症の発症との関係から、環境問題とからめての対応策が望まれる。

アレルギー性鼻炎は、スギ花粉などの抗原体が鼻粘膜の肥満細胞に抗体を作り、抗原が入るとヒスタミンなどの物質が出てくしゃみや、鼻みず、鼻づまりを生ずる。スライドを使ったらわかりやすい解説だった。

最近では気象との関連から花粉の飛散予報が出されている。対策は抗原を減らすこと。マスクや鼻洗浄もいいし、小青竜湯などの漢方薬、薬にも良いものがある。体質を知ることでも大事だ。根本治療はアレルギー敏感症を低下させる体質改善療法。レーザー治療なども生まれている。

関心の高い問題だけに参加者も多かった。質問は花粉症から老人性難聴にまで及んだが、こちらは補聴器しか頼れるものはなさそうだ。

個人D会員（日本経済新聞OB）

浅井 恒雄

ダイアン・ダマノスキ 科学ジャーナリスト



3.23 (月) 研究会
司会 宝利尚一 委員
通訳 長井鞠子
出席 87人

人間の生殖機能などに異常をもたらす有害化学物質が人体に侵入している恐れがあるという。こうした化学汚染物質が母親の胎盤から赤ん坊へ伝えられ、子どもへ受け継がれる負の遺産になっているという。

近年「ホルモン作用かく乱物質」とか、「環境ホルモン（内分泌かく乱物質）」とか呼ばれる危険な物質が世界中に広がっている……。

こうした恐ろしい話をダイアン・ダマノスキさんは美しい顔を曇らせながらも、もの静かに話す。

彼女は米ボストン・グロブ紙で長年、環境問題を担当、それ以前には公共テレビのリポーターを務めたこともあり、難解な化学物質の話も分かりやすく説明してくれた。

一九九六年、二人の科学者との共同作業で執筆した『奪われし未来』

は、世界中に衝撃を与えた。昨春秋に翻訳された日本語版もすでに十万余部を超したという。

同著によると、「環境ホルモン」の影響で精子数の減少や男性の生殖器官の欠陥、免疫機能の低下、かく乱物質を摂取した子どもの脳の発達障害などが判明しているという。

「環境ホルモン」の怖さをダマノスキさんから具体的に聞き出す「囲む会」だったが、若い記者たちが真剣な表情で多くの質問をし、記者会見と変わらぬ活発な議論の場となった。

「子どもを持つ母親が心配している。一体どう対応すればいいのか」という質問が象徴的だった。

ダマノスキさんは個人レベルでは有害物質が蓄積しやすい動物性脂肪の摂取をやめたり、化学物質が溶けだすプラスチック製の食器類を使わないことが有効だろうと話した。

世界各国が「環境ホルモン」への対応を共同して早急に取り組まなければならぬ、ことを痛感した。

読売新聞社論説委員

宝利 尚一

ク ラ ブ ゲ ス ト

大日方邦子 パラリンピック代表選手



当記者クラブに車椅子のゲストを迎えたのは初めてのことだった。

いささか緊張したのは司会役のほうで、当の本人は物おじしない態度といい、質問の受け答えといい、障害をもつ若い女性とは思えないほど実に堂々たるものだった。

大日方さんは金、銀、銅の好成績を残したのは「強化合宿の成果であり、競技器具の開発・改良やコーチ陣、サポーターなどみんなの協力と支援のおかげ」と謙虚に語った。

「世間の目はメダルの数に目がちがいが、選手たちを支えてくれた人たちの努力を忘れてはならない」と述べ、自らの総括として「努力と感謝」の言葉を残してくれた。

「これで障害者スポーツが競技としてようやく認められるようになって

た。でもスタート地点に立ったばかり。ナガノで終わりにしたくない」とも。

次のソルトレークシティー大会に向け、障害者スポーツ振興の所管が厚生省だけではないのか、選手強化のための訓練施設、組織、資金づくりをどうするか、など質疑応答を通じて今後の課題も浮き彫りにされた。

「本番の五輪より感動した。そのエネルギーの源は何か」。絶句しながらの問いかけに「残された機能を活かし、自分を最大限に表現し高める意欲」と答える大日方さん。

一瞬、場内がジーンと熱くなる場面だった。発言そのものが金メダルものだった。

前号紹介の清水くんにつづき、大日方さんも限らない勇氣と感動を与えてくれた。「今どきの若者は」とうかつに言えなくなってきた。

個人D会員（日本テレビOB）
和田 千年
3・24（火）懇談会
司会 和田千年会報委員
出席 44人

ヘザー・フォーリー 駐日米大使夫人



貴賓室から会見場に向かおうとして「ご準備はよろしいですか」と決まり文句の質問をしたら、「私はいつも準備なんかできていないのよ」と茶目つ気たっぷりに言われた。

公務員倫理法という極めて政治的な分野の問題で、駐日米大使の夫人を囲んで勉強会をするという異例の企画。ヘザー・フォーリー氏は、米

国の公務員・政治倫理規定などを笑い話を交えて具体的に丁寧に説明してくれた。

彼女は、米外交官の娘として生まれ、ブラウン大卒。ジョージ・ワシントン大法律大学院を出て弁護士資格を得た。ヘンリー・ジャクソン上院議員（ワシントン州選出）のスタッフを皮切りに三十年間もの米議会

スタッフ経験がある。

フォーリー大使の下院議長時代には首席補佐官を務めた。フォーリー夫人というよりも、むしろ夫の政治的パートナーとして実務を担当してきたベテラン。

米国の倫理規定は、ジョンソン大統領の補佐官の汚職やウォーターゲート事件を経て強化され「非常に厳しく、規制は行き過ぎ」とまで言い切った。例えば、「朝食で、ロールとコーヒーなら良くて、クロワッサンはダメということもある。無難なのは何ももらわないこと」と嘆いた。

夫人の話から、日本と米国の現状がかけ離れていることが浮き彫りになった。それではなぜ、日本で汚職が頻発するのか、との質問に対しては「私は日本のことを知らないから」とかわされた。次は女性問題などで意見を聞いても面白いかもしれない。

共同通信社編集委員兼論説委員
春名 幹男
3・25（水）研究会「公務員倫理法」(2) 司会 春名幹男委員 通訳 池田薫 出席 57人

ク ラ ブ ゲ ス ト

アレキサンダー・ダウン豪外相



ダウン豪外相は、宿舎の帝国ホテルから歩いてやってきた。まだ四十六歳という若さのうえ、飾らない態度が魅力的だ。将来の首相候補といわれるわけが、理解できた。

やや天然パーマがかつたふさふさした髪。髪の毛の多さはうらやましい限り。少しわけてもらえないか」と話を向けると、うちとけた。

当クラブでの会見は二回目。控室での記帳では、今回はサインだけでメッセージは書かないことにした。記念のネクタイは、水玉模様の柄を選んだ。「会見では、アジアの経済危機に質問が集まりますよ。ヘッドラインをいくつかください」と言うとき、笑ってうなずいた。

記者会見のやりとりでは、まったくメモを見ずにきちんと答える。豪

州の記者たちは、外相に日本の減税政策への不満をなんとか言わせようとするが、そうしたしっぽはつかませない。日本の景気浮揚策を大変評価しているとの発言に終始し、内政干渉的な発言は避けた。

約束の時間の午前十一時四十五分近くに、会場にいる豪州の広報担当者が終わりにしてほしいと、サインを送ってきた。本人の時計を指さしながら、最後にもう一つ質問を受けてほしいというとき、うなずいた。新聞記者とのやり取りを、決して避けたり、逃げたりしようとしないう姿勢は、あっぱれというしかない。

質問のほとんどは、インドネシアの経済危機を中心としたアジアの経済危機問題に集中した。帰りのエレベーターで、北朝鮮へ軽水炉を供給するKEDOへの協力について聞くとき、「豪州としても最大限の協力を韓国政府に約束した」と語った。

毎日新聞社論説委員 重村 智計

3・26(木) 記者会見 司会 重村智計委員 通訳 森由美子 出席 76人

デビッド・ドーマン ポイントキャスト社長兼CEO

四十四歳である。冒頭、ビル・ゲイツにたとえられて、まんざらでもない表情。

「インターネットは四つの分野に大きな影響を与えている」と切り出した。その四つとは、コミュニケーション、商取引、教育、エンターテインメントだという。

アメリカでは一九九六年、Eメールで送られたメッセージの数が郵便を抜いた。

流通の形態も変わる。本、CDなどをインターネットを通じて販売する会社が、一社で五千万人の会員を擁しているところも。ビジネスウィークによれば、昨年のクリスマスに、全米で購入された商品の六%はインターネットを通してであった。

教育の分野では、教室に出席しなくても単位が取れる。技術者不足解

決の有効な手段だ。エンターテインメントでは、遠隔地の人と遊べる。そのうち、話はポイントキャスト社の事業のことになった。

ポイントキャストとは、ブロードキャストの対極の言葉で、一点から個に向けて情報を伝えるという意味だ。顧客は、同社がインターネットを通じて流すさまざまな情報のなかから必要なものをパソコンに取り込むことができる。すべて広告収入でまかなうので、情報料は無料。ニューヨークタイムズ、CNNといった新聞、雑誌、放送、通信社など六百のソースからコンテンツ(情報)の提供を受け、アメリカでは五十五のチャンネルで流している。開業以来二年で顧客は百三十五万人に達した。日本では昨年十月末にサービス開始。現在十一万人の顧客がいる。

研究会の場を借りた宣伝ではないかという会員の感想も一部聞かれたが、同社の事業に特化した質問も多く、それなりの意義はあった。

個人D会員(朝日新聞OB)

長沢 光男



3.26(木) 研究会「インターネットビジネス」 浅井恒雄委員 柴田節子 通訳 出席 115人

クラブゲスト

土井 たか子 社民党党首



3.27 (金) 昼食会
司会 内山敏夫委員 宇治敏彦委員
出席 115人

当クラブへの登板は七度目。恒例の揮ごうをお願いするとき、二年前の書が「絆」だったことを示して、進行役の内山委員（テレビ東京解説委員長）が自民党との蜜月（腐れ縁）ぶりを皮肉るように、「今回は「絆を断つ」でもお書きいただけますか」と水を向けた。土井さんは「絆は一層大事にしないではいけません」とそらして「心」と揮ごうした。

三党合意を一夜にして逆転させ、政治家によるあつせん利得を処罰する「政治腐敗防止法案」の制定に反対を決めたことを厳しく批判した。

「政治活動が規制されるというが、対価として金品を受け取らなければ、どんどんやっていたいい」「与党三党合意を一党の意見でひっくり返すのでは、与党協議の意味がない。このままでは「深刻な事態」になることもあり得る」——この部分は「おたかさん」の元気を感しさせた。

景気の問題でも「消費税を三％に戻すことも念頭に案を練っている」と、社民党の独自カラーを打ち出そうと腐心している様子がかがえた。「弟（橋本首相）は姉（土井党首）の言うことを聞くべし」という土井さんだが、はたして思いどおりにいくのだろうか。

記念品はボールペンだったが、既に当クラブの万年筆も持っているとのこと、女性ゲストへの記念品にはさらに工夫が必要だろう。

中日新聞社役員待遇・東京本社論
説主幹 宇治 敏彦

●首相からの贈りもの



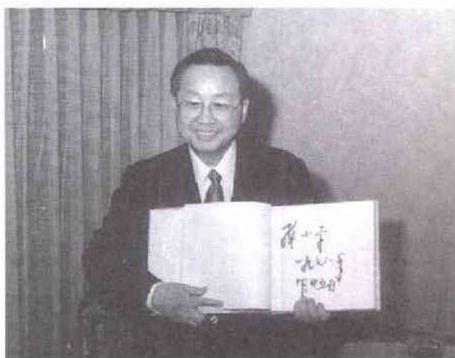
ニュージーランド
ワインを！

ニュージーランドの女性首相・シップリーさんのさわやかな笑顔に魅せられました。しかも記者会見（3・11）では冷静で沈着で、メリハリのあるやりとり。日本にもこのような政治家が——と、正直思ったほどでした。

大使館が届けてくれたワイン四ダースのおみやげも大好評。会員は、クラブレストランとラウンジでその芳純な味覚を堪能しました。（那部）
写真—会見前に、ラウンジのカウンターに並べられたご自慢の赤・白ワインに思わずニコリ

うことを知り、主任の温顔はさらにゆるみました。（岩崎）

▼二十年前、ここで取材しました
中国國務院の曾建徽新聞弁公室主任一行が、クラブを訪れました（3・24）。十階ホールを案内した那部専務理事に、曾主任は「鄧小平会見のとき、ここで取材しました」と。主任は当時新華社の副編集長で、同行記者団の団長として、日中双方にとって画期的だったこの会見をカバーしたそうです。一行の一人、蘇海河記者（中国青年報）が元クラブ会員で、同行した李文亮参事官も会員だとい



鄧小平氏のクラブ会見の際の記念署名を胸に

沖縄返還交渉

「ハイライト」と情報戦



尾畑雅美

私は、仙台に行くたびに「青葉城跡」を訪ねる。観光客は、鑑兜に身を固め、馬上豊かな伊達政宗公像に集まるが、私の目的はそこかたわらにひっそりとたたずむ、愛知揆一さんの立像へのごあいさつである。「お久しぶりです」とあいさつすると、生前と変わらぬ温顔が一瞬、和むかに見える時もある。

話は、約三十年前にさかのぼる。一九六九年五月。第一回の「沖縄返還交渉」のためワシントンに向かう特別機の機中である。日本側の交渉の主役、愛知揆一外相が突然、同行記者団の席に姿を現し、「これ以上はない最高の使命をいただきました。この仕事をやり遂げるまで生きがいである煙草をやめます」と言われた。類が珍しく紅潮していた。

愛知さんは、一日八十本以上吸う「チェインスモーカー」で、起きて

いる間は指から「ハイライト」を離さない。「禁煙」は、清水の舞台から飛び降りるような覚悟だったに違いない。新聞各社は、二面の「記者席」という、人の消息を扱うコラムで「外相「禁煙」で決意表明」などと書いた。

愛知さんは大蔵官僚出身。緻密な政策通で「テクノクラート型政治家」と言われた。対人関係は得意ではなく、「寝業」などはおおよそ無縁の方だった。煙草と酒をこよなく愛し、お酒の方は「底なし」の酒豪だった。が、お酒が入ると、時に人に突っかかる癖があった。

当時の外務省では、夕方、大臣と外務省担当の記者団との「懇談」が

あり、ビールや水割りがあった。この席で、大臣と記者団が口論になって、双方が譲らずに物別れになることもあった。記者団が大臣に「会見を一切拒否する」と通告する事態にまで発展したりした。

事務方の牛場信彦事務次官や齋藤鎮男官房長には頭の痛いことだった。佐藤栄

作首相が、長期政権の成果にしたい「沖縄返還」の日米交渉を直前に控えていた時期である。「沖縄返還を看板に総選挙も」という思惑もあり、マスコミとことを構えるのは避けたところであった。

そこで、牛場さんらはなぜか私に「調整役」を頼んでこられた。私はNHKの外務省キャップで、政策型記者「を」目指し、外交問題が面白くてしょうがないころだった。ある日、牛場、齋藤両氏に呼ばれて行くと、「お国のために一肌脱いでください」と切り出された。優秀な外交官は口説きもお上手だった。すぐ木に登る性格の私はお申し出を受け「ヨージ」と自分に気合いを入れ、双方の顔が立って、折れ合えるよう心を砕いた。当時の記者は、各社とも猛者ぞろい

だったが、一面情の通じるところもあった。

かたや、愛知さんは生真面目だからカツとなるが、酔いがさめると「大人気なかった」と反省された。ただ、シャイな性格で、頭を下げることができなかった。もともと、双方が仕事に熱意を燃やし、悪意はないのだから、若い私でも何とか調整役を果たすことができた。愛知さんは、こちらが恐縮するほど感謝してくださった。

さて、沖縄返還交渉は、愛知外相とロジャース國務長官を日米双方の主役に、ワシントンと東京で交互に行われた。そして、その年の十一月、佐藤首相とニクソン大統領の間で最終の交渉がホワイトハウスで行われた。

交渉が終わり、ホワイトハウスの大統領執務室わきの一室で、両国の首脳が双方の健闘をたたえ合って、シャンパンで乾杯した。その時、ニクソン大統領が愛知外相に話しかけた。「愛知さん、よく頑張りましたね。大仕事をやったんだから、もう一服やってもいいでしょう?」

愛知さんは、大統領が自分の「禁煙」を知っているのにビックリした。さらに驚いたのは、大統領が封を切



尾加雅美様

って差し出したのが、自分がこよなく愛煙した日本の「ハイライト」ではないか。感動で震える手で一服する愛知さん。拍手する日米の首脳たち。ホワイトハウス詰めのアメリカーカメラマンは、この一瞬を逃がさなかった。フラッシュが光った。

大役を終えた外相は、ニューヨークに立ち寄った。外相秘書官が呼びにきて、愛知さんのくつろぐウオルドルフ・アストリア・ホテルの一室に、私を案内した。豪華なスイートルームに、かねて懇意にしていた内

解煙した瞬間をとらえた写真—愛知外相はサイン入りで筆者に贈った

田宏ニューヨーク総領事がおられた。冷えたシャンパンで乾杯した。愛知さんは満面に笑みをたたえて「これが大統領がくれたハイライトです。どうぞ」。愛知さんの感激を紫煙とともに深く吸い込んだ。それまでは、よかった。それからがハチャメチャだった。

大の酒豪が、こつちが杯を干す間もなく、ワイン、日本酒とジャブジャブ注ぐのだ。そして歌である。愛知さんが知っている歌はただ一曲だけ。「ブルーシャトール」。森と湖に囲まれて—ブルー・ブルー・ブルー・ブルー・シャトール—というあれである。

一晩中、果てしなく続き、夜が白むころには「ブルブルブル」が御詠歌なのか、つぶやきか、分からなくなるほどであった。

帰国後、大臣室に呼ばれて、額入りの「解煙」の場面の写真をもらった。愛知さんのサインが毛筆でしてあった。愛知さんは目を伏せ、照れながら「もらってくれませんか」と言われた。政治家の生涯で最高の瞬間がモノクロの写真に凝縮していた。

舞台は暗転する。二年後の一九七一年七月十五日。私は政治部のデスクとして国会記者会館で勤務していた。ちょうど正午のニュース直前に、ウルトラ級の大ニュースが飛び込んできた。「ニクソン大統領の中国訪問」である。

ビタリ、官房長官の会見中だったので、内閣担当の記者に日本政府の反応をニュースにたたみ込むように指示。しかし、いくら待っても記者からウンともスンとも言っていない。そうこうしているうちに、ニュースは終わってしまった。私は予定の原稿を用意して待っていた。「アジアの平和のために喜ばしい」「友好国の頭越しの外交はけしからん」「米側に外交ルートで問い合わせる」の三通りだ。だが、何も言っていないのは予想にないことだった。

後で聞くと、官房長官は記者団の質問に「ウーン」とうなったきり、ついに一言も発しなかったというのだ。「あまりのことに肝をつぶしたのだでしょう」と記者が言った。

その一カ月後、今度は「ドルと金の交換停止」の抜き打ち発表があった。「ジョン・ウエイン」並みの強烈

なダブルパンチだった。

ニクソン大統領は、愛知さんには「CIA情報」を巧みに使って大人のパフォーマンズを見せた。そして魅せた。そして次には、完全な「情報秘匿」。キッシンジャーと組んで、非情な世界戦略を見せつけた。もちろん、私が見聞きしたのは「情報戦」のほんの一端に過ぎないのだが—。

愛知さんとの別れは早かった。田中角栄内閣の大蔵大臣になられた直後、一夕お会いする機会があった。そこで「私は殺されますよ」と冗談めかして言われた。積極果敢な角さんが総理ではインフレは必至だし、どう考えても蔵相は悪役を務めなくてはならないということだった。それから間もなく、蔵相在任中に倒れて急逝された。

青葉城跡で、私は「ハイライト」の額は大事にしますよ」と愛知さんにしか通じない言葉を交わすのである。

おぼた まさみ会員 一九三三年生まれ
五六年NHK入局 政治部記者
報道局整理部長 スポーツセンター長
衛星放送局長 名古屋放送局長 理事
専務理事などを歴任 現在 未来をひらく日本委員会代表

外報部に配属になって九年になる。この間、湾岸戦争や旧ユーゴスラビア紛争、ペルーの日本大使公邸人質事件、カンボジアのクーデター騒ぎなど、それなりに事件には関わってきた。だが、今回のインドネシア危機ほど疲労感の残る取材はほかに記憶がない。

疲労感の原因は、結局はこの国のかじ取りは、三十年にわたり統治してきたスハルト大統領だけが行い、会うのが容易ではない本人に聞かなければ、どの道を選択するのか確かなことは分からないといういら立ちにある。さらに、長期化必至の取材のなかで、国民の意思を吸い上げることのない政治システムに接するうちに、それが蓄積されているからなのだと思う。三月十日、スハルト大統領が七選を果たし、新政権が発足した。しかし、新内閣には長女や政商と言われる側近が顔をそろえ、改革派を中心に経済危機への取り組みを期待した国民を失望させた。大統領も「経済自由化はわが国の家族主義の原則と相いれない」と居直り、国内には経済危機解決に向

—インドネシア危機—

開発独裁型の限界

▶ 菱 沼 隆 雄
(読売新聞社)

けた仕切り直しの雰囲気すら生まれていない。

スハルト体制の矛盾が経済危機下で露呈しながら七選を果たした理由の一つについて、元閣僚の一人が、「スハルトは負のバランスの上になっっている」と説明してくれたことがある。

インドネシアでは一九六五年の故スカルノ大統領からスハルト大統領の政権移行期に、数十万人が共産党員狩りの名目で殺害された。社会不安が高まって、殺り

くの記憶の残る国民は、騒乱を望まず、大きな変革の動きにはプレキをかける。国際社会にとって、世界第四の人口を持つ多民族国家の混乱は、経済ばかりか地域の安全保障にも支障をきたす。

結局はスハルト大統領自身を通じての改革支援という現実論を選択するしかない。「国民の心はもはやスハルトにないのは明白だ。しかし当面、内外ともに支えなければいけない理由がある」とこの閣僚は言う。

とはいえ、昨夏以降の七〇%以上の通貨ルピアの下落は、市民生活をますます苦境に追い込み、負のバランスさえも崩しかねない状況でもある。

輸入品を中心に物価は二、三倍に跳ね上がった。ジャカルタ市内を走る約七万台の公共バスは、部品の輸入が難しくなり、約三〇%が運行できない状態だという。実質失業率が約三〇%に達したというニュースもある。

外貨で生活する外国人には物価高の直接の影響はないが、治安面の不安から、家族を帰国させる企

業が相次ぎ、私の長男が通う幼稚園も二十人定員のクラスのはずが、今では七、八人しかいない。今回の経済危機では「確信の危機」という言葉がよく使われる。半年で崩壊させた通貨危機は、開発独裁型の政治の限界を露呈させ、インドネシアが有力市場だとの確信を投資家から奪った。

とすれば、危機の克服は内外の信用を勝ち得た政府でなければできない。国民の信任を得た新政府のもとで、経済が底を打ったタイや韓国がこれを示している。

インドネシアでは同国の最大課題である後継者問題にも道筋をつけ、政治的な先行きの不透明感を払拭することも求められる。現在の経済改革に焦点を当てた議論では、一時の落ち着きを取り戻してインドネシアの混乱はいまだ出口が見えない。

ひしぬま たかお氏 一九八二年入社
ワルシャワ支局 政治部 パンコク支局を経て
九七年九月からジャカルタ支局長

一九九八年四月五日。明石海峡大橋が開通、八五年開通の大鳴門橋を合わせた「本四連絡道・神戸—鳴門ルート」が全線開通した。一九一四年、徳島県選出代議士が鳴門架橋を提唱して八十四年。「夢のかけ橋」と呼ばれた二長大橋の実現は、離島である徳島、四国に「新時代の幕開け」を告げた。

「本四直結は、徳島にとって今世紀最大の出来事。全社的に企画委員会を置くが、編集でやる連載記事、特集企画、開通当日取材、記念イベント取材をどうするか、考えておけ」。ちょうど二年前の九六年春、編集局長がこう命じた。記者は進行中の企画が一段落したその夏から企画案づくりを始め、秋には取材班が動き始めた。

取りかかったのは、一面の長期連載「夢かかる」。第一部（三十四回）は九七年一月、「架橋史」をサブテーマにスタートした。一世紀に近い「本州への道のり」には、太平洋戦争、児島—坂出ルートとのし烈な先陣争い、第四次中東戦争・石油ショックによる着工凍結、明石海峡大橋の鉄道併用橋断念、

臨時行政調査会報告による着工抑制；など様々な壁が横たわっており、その場に立ち会った人々を訪ねながらつづった。

九七年四月に始めた第二部（六十回）のサブテーマは「検証・徳島21世紀」。本四直結は徳島、四国から広がる交流・連携の圏域を大

ているのも事実。その「光と陰」を運輸・交通、地域安全、観光、産業立地、文化・スポーツ交流、農林水産業、サービスマーケット分野別に検証、課題を追った。

サブテーマ「交流新時代へ」の第三部（十六回）は、開通が迫った今年の新年連載にあてた。交流・連携とともに地域間競争も強まる近畿、中国、四国の十府県を訪ね、各地が取り組む特徴的な地域戦略を探った。さらに「神戸—鳴門全線開通 あと30日」のカウントダウン（一面）と同時にスタートさせた第四部（十八回）は、航空

報告 島 列

— 徳 島 —

明石海峡大橋 長期連載「夢かかる」

齋 藤 秀 人
（徳島新聞社）
報道部副部長

大きく広げ、社会・経済・文化・生活環境に激しい変化をもたらす。神戸—鳴門ルートは本四3ルートの中で最も「経済橋」の性格が強く、「四国の玄関口」となる徳島への波及効果が期待できる。半面、国内第二の経済圏である関西への「ストロー現象」など不安を抱え

写真を中心に全ルートを紹介、間近に迫った「夢かかる」を読者に実感してもらった。

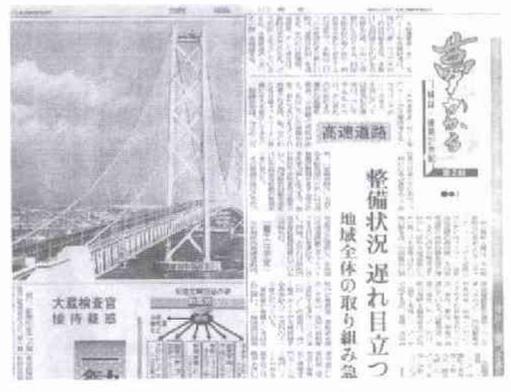
社会面の新年連載では、開通と切り離すことができない「盛衰阪神航路」（二十三回）を取り上げた。徳島—本州間の旅客交通を支えてきた徳島—阪神航路は歴史的

な役割を終える。「阿根航路」と呼ばれた明治から大正、昭和、平成の阪神航路を振り返るとともに、神戸—鳴門の全線開通で離職する船員の人間模様を描いた。

特集は97新年号、98新年号に各十二ページを展開。さらに開通前日の四月四日付に十六ページ、開通当日の五日付朝刊に二十ページ、五日夕刊時間帯の号外に八ページを展開した。

一年余りの連載、特集企画を終えた今、開通取材の準備に追われながら「開通後の検証」が気になり始めている。

（さいとう・ひでひと）



1年余り、紙面で橋を様々な角度から検証した

第51回総会

(3・25 宴会場)

日本記者クラブ第51回総会(九七年度臨時総会)は、三月二十五日午後三時から行われた。出席法人会員二四社、委任法人会員一〇九社、計一三三社の出席をもって成立(定数七六社)、加藤博久理事長を議長に選び、議事を進めた。

九八年度事業計画ならびに収支予算(13ページ参照)を理事会案通り可決した後、昨年五月の通常総会以降の役員の一部交代を承認した。

■会議報告■

98年度日本記者クラブ賞推薦委員会

(3・6 大会議室)

推薦のあった三候補について意見を付して、四月三日の選考委員会に報告した。

出席 春原委員長。森脇、池田、深谷、南部、村澤の各委員。

第190回報委員会

(3・9 大会議室)

三月号について意見交換した後、四月号の編集について協議し、同号から、会員の新刊書を紹介するコー

ナー「マイBOOK マイPR」をスタートさせることにした。

出席 住田委員長。田村、和田、大空、伊波、桝邑の各委員。

第265回企画委員会

(3・12 宴会場)

委員交代(読売・中園龍二氏から小島敦編集局次長、日経・島田昌幸氏から立岩文夫編集局次長)を報告した後、今後のクラブゲストについて協議した。また、五月の総会記念講演の講師に女優の岸恵子さんが決まったことが報告された。

出席 神塚委員長。小島、立岩、春名、藤原、神志名、羽生、川戸、茅野、饗庭の各委員。

第70回総務委員会

(3・16 小会議室)

九八年度の事業報告および収支予算の原案を承認した。また、九八年度日本記者クラブ賞選考委員会を総務委員会委員で構成することにし、理事会上に上申した。

出席 杉田委員長。神塚、住田、斎田、田村、三辺、石川、浅野、酒井の各委員。加藤理事長、齋藤副理事長、那部専務理事。

第300回理事会

(3・16 大会議室)

一、九八年度の事業計画案および収支予算案を総務委員会案通り承認し、第51回総会に上程した。

一、日本記者クラブ賞の内規に従い、総務委員会委員に九八年度日本記者クラブ賞選考委員会委員を委嘱することを決定した。

一、第51回総会(予算)を三月二十五日、第52回総会(決算)を五月二十五日に行うことを決定した。

出席 加藤理事長、齋藤副理事長、那部専務理事。杉田、齋田、長谷川、田村(泰)、玉川、斎藤、中原、小笠原、三辺、田村(哲)、浅野、酒井、宮地の各理事。白鳥氏(代理)。富尾、藤田、夏目の各監事。

第147回会員資格委員会

(3・18 小会議室)

委員交代(日経・久保庭啓一郎氏から河西敬一編集局次長)を報告した後、四月一日付の入退会を審議し、理事会に答申した。総務委員会から検討を依頼されたジュニア会員制などについても協議した。

出席 齋田委員長。北村、小谷、河

西、伊藤、市村、船田の各委員。

第120回施設運営委員会

(3・23 小会議室)

総務委員会から検討を依頼された課題①若手の現役記者に親近感を持つてもらったための方策、②事業収入の拡大策について協議し、次回引き続き検討することにした。十階のレストラン・アラスカがクラブ料金並みで利用できるようになったことが事務局から報告された。

出席 石川委員長。椿、田村、山田の各委員。

△理事交代▽(三月度)

山陽新聞社

(新) 中原佑介 東京支社長兼総務部長兼論説委員

(旧) 岡田健治

△監事交代▽(三月度)

愛媛新聞社

(新) 矢野元昭 東京支社長

(旧) 藤田征三

△法人会員代表変更▽

中国新聞社

(新) 山本 治朗 代表取締役会長

(旧) 山本 朗 兼社長

1998年度予算

自 1998年4月1日

至 1999年3月31日

科 目	年 額	月 額
[支出の部]	円	円
1. 事業費	250,467,000	20,872,250
借室維持費	197,475,000	16,456,250
借室料	119,595,000	9,966,250
共益費	16,640,000	1,386,667
空調・光熱・水	11,240,000	936,667
ホール専用利用費	50,000,000	4,166,667
会議費	3,641,000	303,417
事業運営費	22,672,000	1,889,333
会報発行費	17,000,000	1,416,667
運営雑費	1,542,000	128,500
通信費	3,526,000	293,833
印刷費	3,351,000	279,250
交通費	1,260,000	105,000
2. 管理費	165,649,000	13,804,083
(1) 人件費	136,911,000	11,409,250
給与金	79,678,000	6,639,833
賞与・諸手当	55,233,000	4,602,750
厚生費	2,000,000	166,667
(2) その他の管理費	28,738,000	2,394,833
クラブ管理費	20,786,000	1,732,167
機器備品費	1,000,000	83,333
消耗品費	3,004,000	250,333
事務委託費	3,036,000	253,000
事務雑費	912,000	76,000
3. 諸引当預金への支出	6,000,000	500,000
(1) 退職準備積立預金	6,000,000	500,000
(2) 資産準備積立預金	0	0
4. 予備費	5,648,000	470,667
小 計	427,764,000	35,647,000
5. 特定積立預金支出	1,362,000	113,500
(1) クラブ賞積立預金	340,700	28,392
(2) 特別積立預金	645,400	53,783
(3) 増加賃料積立預金	375,900	31,325
6. 諸積立金支出	100,000,000	8,333,333
(1) 資産準備積立金	100,000,000	8,333,333
小 計	101,362,000	8,446,833
計	529,126,000	44,093,833

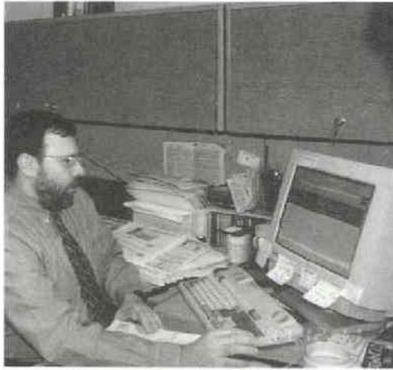
科 目	年 額	月 額
[収入の部]	円	円
1. 会費収入	374,732,400	31,227,700
(1) プレス会員会費	325,690,800	27,140,900
法人会員会費	214,140,000	17,845,000
個人A会員会費	31,110,000	2,592,500
個人B会員会費	2,772,000	231,000
個人C会員会費	16,816,800	1,401,400
個人D会員会費	60,852,000	5,071,000
(2) 賛助会員会費	49,041,600	4,086,800
法人賛助会員会費	36,252,000	3,021,000
個人賛助会員会費	7,548,000	629,000
特別賛助会員会費	5,241,600	436,800
2. 事業収入	50,556,200	4,213,017
(1) 貸室収入	32,499,000	2,708,250
(2) 飲食売上割戻金	16,449,000	1,370,750
(3) 施設機器賃貸収入	1,608,200	134,017
3. 雑収入	2,475,400	206,283
(1) 受取利息	2,274,900	189,575
(2) その他の雑収入	200,500	16,708
小 計	427,764,000	35,647,000
4. 入金	0	0
5. 特定預金受取利息	1,362,000	113,500
(1) クラブ賞積立預金	340,700	28,392
(2) 特別積立預金	645,400	53,783
(3) 増加賃料積立預金	375,900	31,325
6. 特定預金取崩収入	100,000,000	8,333,333
(1) 資産準備積立預金	100,000,000	8,333,333
小 計	101,362,000	8,446,833
計	529,126,000	44,093,833

ワシントン NPCリポート (下)

ワシントンのナショナル・プレスクラブ(NPC)の会員数は約四千五百人。当クラブより千五百人ほど多い。会員社と会員を分けた二元的な構成になっている当クラブに対して、NPCは原則として個人会員制だ。

大きく分けて現役会員、そしてOBならびに政府機関広報担当などを含めたOB・マスメディア関連会員(以下OB会員)、賛助会員となっており、中身は当クラブとまるで違っていた。

中核となる現役会員一つとして、新聞、通信、テレビにこだわ



NPCのホームページ。行事予定などをグランド図書館司書が入力

らない。雑誌であれ、ニュースレターであれ、発行物にかかわる関係者なら、会員になれる。ニュース漫画家でも、イラストレーターでも、ノンフィクション作家でも、そうなのだ。

企画委員会のマーティン委員長は、ロール・コール・リポートというシンジケートに所属していたし、頼みもしないのにマーティン委員長を探し出し、取材の段取りをつけてくれたフランス人の委員は、あるシンクタンクの代表だった。この委員は「両クラブを衛星で結んでテレビ会議を行い、情報交換をしよう」と近づいてきたのだが、裏に商売話がおつていた。

こうした現役会員も「現役」の資格がなくなった段階でOB会員になれる。賛助会員にいたっては、およそ職業上マスメディアと常にコンタクトを有する者ならだれでもOK。著作家、劇作家、詩人も賛助会員だし、NPCビル内のテナントにも、賛助会員に準ずる

斬新な34歳以下会員

資格があった。また、理事会が適当とみなした団体なら、期間の限定はあるものの、同様の権限を持つる仕組みになっていた。

ユニークなのは「グラデュエイト・スチューデント・メンバー」。なんと、将来、マスコミを目指すジャーナリズム専攻の大学院生までが会員なのだ。そして、もう一つ、「スパウス・カード」の発行だ。会員だった夫あるいは妻が死亡した場合、連れ合いにも施設の利用を認めている制度だった。

会費は年会費で、現役会員四四五ドル、OB会員五七〇ドル、賛助会員六八五ドル。円換算(一ドル＝百三十円)で月額四千八百二十円、六千七百七十五円、七千四百二十円



サイン写真のゲスト会食入り 子貞方 昭子

だから、日米にそう変わりはない。ただこれは、ワシントンのメトロポリタン地域内に住むか、職場を持つ会員の場合で、非居住者会員は、現役・OB会員が一二〇ドル、賛助会員が四六五ドルとかなりの安め。大学院会員と「連れ合い会員」は一三五ドル、五五ドルという格安さだ。

心を動かされたのは、ワシントン居住者に限定した三十四歳以下会員の存在だ。現役・OB・賛助会員いずれにもこの制度があり、年会費はほぼ半額。現在三百六十人が登録されている。クラブの平均年齢が四十八歳だったため、世代差のない会員制度を目標に、若いジャーナリストに積極的に呼びかけてバランスをとった、という。おかげで、平均年齢は四十五歳に下がった。

「ワーキングプレスの優先」を何よりももうたい続けてきた日本記者クラブだ。一線記者の更なる積極的な参加を求めて、活性化の参考にした制度の一つである。

(那部 吉正)

〈創立九十周年〉

NPCCにお祝いのメッセージ

当クラブは来年が三十周年ですが、ワシントンのナショナル・プレスクラブは四月三日に、創立九十周年の式典を行いました。那部専務理事名で、クラブからもお祝いのメッセージを送りました。

当日はホワイトハウス取材の問題点を現場の記者を中心に討議するセミナーの開催など、一日中、記念行事が続きました。

ハイライトは、日本記者クラブ賞にあたる、「第四権力賞」の受賞者を一堂に集めた昼食会で、最初の受賞者で、CBSニュースの元アンカーマン、ウォルター・クロンカイト氏

が記念のスピーチを行いました。午後六時からガラ・パーティーに移り、施設を全面開放し、会費二十ドル、先着千人に限定した大宴会を催したそうです。(石川)

寄贈書

97報道写真展―記念写真集

東京写真記者協会

招待券

朝日新聞社から「近デジタル情報時代 新聞の挑戦―ジャーナリズムは生き残れるか 日本新聞協会」朝日美術の軌跡展「ケルト美術展」高橋節郎展「曾我蕭白展」、平野光男会員から「現代アメリカ版画の40年展」の招待券をご恵贈いただきました。お礼申し上げます。

Party

日本記者クラブの事務局長で初代専務理事をつとめた毎日新聞OBの白木東洋さん(六六)

を「囲む会」が三月十一日、プレセクターで開かれ、約二百七十



人が参加した。「東洋さん」と呼びかける親しみのこもったあいさつが続き、長い記者生活の意外なエピソードが明かされるたびに会場は拍手と笑いに包まれた。

日本新聞協会の小池唯夫会長(毎日新聞社長)は白木さんが事務局長として初の五党首公開討論会の実現に尽力したことや、「六〇年・七〇年安保」を取材した社会部記者時代の活躍を紹介。デスクとして二人で「記者の目」欄を軌道に乗せた日々を語った。

日本記者クラブの水上健也元理事

白木東洋さんを囲む会

長(読売新聞会長)は「苦楽を共にした仲」と振り返り、クラブのスペース拡大の問題で「各社を回り、会費値上げという嫌な件に淡々と了解を取ってくれた。おかげでクラブも国際的に認められるようになった」と感謝した。

会場では現役の社会部記者が作った「号外・白木特集」が配られた。本人への取材と関係者の証言から様々な秘話を発掘した紙面は好評で、特に六〇年一月の「岸首相の渡米」をめぐる全学連幹部とのやり取りは関心を呼んだ。

マイクを握った政治評論家の森田実さんは「この新聞は真実です。実は

朝比奈 豊

白木さんからの連絡を受けた当時の全学連の幹部というのは私なんでありまして」と爆弾証言。会場をわかった。和子夫人と並ぶ白木さんを前に、下稲葉耕吉法相、川島広守・プロ野球コミッショナー、国松孝次・前警察庁長官、佐々淳行・初代内閣安全保障室長らが次々に「東洋さんの思い出」を披露。公安記者としての広く深い人脈と歴史が参加者の目に焼き付いた夜でもあった。

毎日新聞社会部長

朝比奈 豊

写真：あいさつする「東洋さん」、右は和子夫人

清水宏保

スピードスケート選手

記者会見 から

1998年2月25日



清水 やはり、一番ほしかった物が、僕の元へ来てくれたということで、喜びはかなりありました。

小宮山 その二百五十グラムと同じ重さのものがここにあります。スケートワンピースというのだそうですが、これを着て滑られた。ずいぶん改良を重ねて、軽量のものになったとうかがっています。

清水 私の場合は、体型が少し特殊なもので、コンピューターでカットイングのデザインができません。手で採寸して、手編みになっています。

小宮山 清水さんは努力して実力をスラップスケートで出されたと思うのですが、一番苦労したのはどういうところでしょうか。

清水 いままで固定されていたかかとの部分が固定されなくなったせいで、安定性がかなりかけました。ですので、早い動き、かなりハイスピードな動きの中でも、バランスをとるのが難しかったというのがありました。後はそれほど苦勞せず、素直に入っていたという感じでした。

小宮山 金メダルのレースのゴールを切られて、最初のインタビューで、堀井学選手のことを言われたのが印象に残っています。堀井さんのことをおっしゃったのはどういうお気持ちだったのでしょうか。

清水 レース前からコメントを考えてレース

しているわけではないので、あれは、本当にごく自然にでてきた言葉だったと思います。

春名幹男(代表質問・企画委員) 日本は政治・経済があまりよくないと、スポーツ選手ががんばる、といったことが常にあるような気がします。特に、最初に切り込み隊長的な役割を果たされた清水選手に感銘を受けたのは、精神力だったと思います。

日本では肝心なときに決断ができない人たちが、政治や経済の世界でもたくさんいます。その強い精神力の秘けつについてまずお聞きしたい。

●自分のライブをやろうと

清水 やはり、かなり緊張はしていました。僕自信も臆病になっていて、守りに入るような状態だったのです。でも、そうではなく、攻めの気持ちとよく言いますけれども、まさに単純に、何か新しいものにチャレンジしていく気持ちで、オリンピックをやろうと思いました。まず第一に、その気持ちがあったんですね。

それと、人に見せるレース。自分のライブをやろうと思いました。ようするに、皆さん、僕自身のスケートティングを見にきているんだ、だから結果ではなく、僕の最高の滑りをすればいい。そうすれば、満足していただけるだろうという単純な気持ちに開き直りました。結果を考えず、失敗してもこれで終わりではないんだ、

次もあるし、今すべてをやりきれればそれでいい、という気持ちでオリンピックに挑戦しました。

春名 結果のことはあまり頭には入れなくて、最高の滑りをするのを心掛けたということですか。

清水 そうです。でも、意識の中で、自分が表彰台の一番真ん中に立って、君が代を聞いているシーンの青写真はできていました。ですので、それ以降のことは全く考えていなかった。そこにたどり着くまでの、その前だけを考えてレースに挑みました。

春名 清水さんの支えになったのは、ご家族だったと思います。特にお父さんの影響が強かったと報道されていますが、どのようなお父さんだったのでしょうか。

清水 高校二年生まで父親がいました。報道されている父親は、すごい厳しい。確かに厳しかったのですが、あそこまで厳しくはなかった。鬼でしたけれども、その中にやさしさが感じられた父親だった。でも、そのやさしさに気づいたのは、父親が他界してからでした。皆さんそうだと思うのですが、いなくなつて初めて気づくということがたくさんあつて、それまでは、なんでこんなに厳しいんだらうと、疑問しか抱いていなかった。

高校生の親に対する理解というのは、そこまですりかたがなかった。今こうして振り返ってみると、現時点で父親がいたならば、今の僕自身

はなかったんじゃないかと思えます。父親がいなかったからこそ、自分の考え、自分の信念を持ってやってこられたのではないかと思えます。

春名 友情ということにも、私たちは感銘を受けました。あの現場のインタビュアー後、堀井選手とは何か話をされましたか。

清水 次の日の朝、部屋が一緒だったので、朝起きて、「お疲れさん」という言葉をお互いに掛け合いました。「おめでとう」という言葉をいただきました。はじめ言葉はなかったんですけども、話しているうちに、お互い目に涙が浮いてきまして、とりあえず「これで肩の荷がやっと降りたね」という言葉を掛け合いました。

春名 これからの目標は何でしょうか。

清水 競技者の最大の目標は、自己ベストを更新し続けることだと思います。昨年の五百メートルの自己ベストをまだ更新していないので、一年、一年自己ベストを更新し続けるような気持ちでチャレンジしていきたいと思えます。自己新記録イコール世界記録なので、次は世界記録を狙っていきたいと思えます。そして、まだ気持ち的にも時期的にも早いのですが、四年後のソルトレークシティー・オリンピックでも、五百メートルで金メダルをとり、二連覇を目指したいと思えます。

春名 JOCからの報奨金は、何かにお使いになる予定はありますか。

清水 それに関しては、オリンピック後、幾度か聞かれてきたんですけども、この場でお話ししようと思っていました。

この度、金メダルを取らせていただいたのは、皆さんのおかげでした。このオリンピックという舞台で、日本選手団の旗手をさせていただいた際に、聖火ランナーの中で、地雷撲滅を訴えるシーンがありました。ですから、金額的には正確には言えませんが、報奨金の一部を、地雷撲滅の方に協力させていただければと思っています。

それと同時に、三月七日から行われるパラリンピックの方にも協力できたらと思っています。

●：ボクだけの母のままで

春名 先ほど、控室で書いていただいたものを読んでいただいていたよろしいですか。(サイン帳をかかげて)

清水 「我以外 皆 我が師」

春名 常にそういうお気持ちでいらつしやるということですか。

清水 そうですね。常にこういう気持ちはあります。私以外の人々すべてにおいて、学ぶことはたくさんあると思うので、常にこういう姿勢で生きていきたいな、と思えます。

春名 今度のオリンピックでは、選手の家族の苦労話などを報道して、読者の感動を呼んだ

と思います。メディアの役割というものも大変大きかったと思うのですが、率直に言わせて、そのメディアが、選手にプレッシャーをかけたということが実際にはあったのではないか。マスコミに迷惑したということがなかったでしょう。か。本音を語っていただければと思うのですが。

清水 決して批判するわけではないのですが、今回、プライベートな件、特に母親がメディアに出てしまうというのは苦手でした。僕自身の中で、母は母でいてほしいというものがありました。メディアの方が取材に行ってしまうと、母も受けてしまうということもあると思うので、控えてほしかったというのが実感でした。

でも、今回のオリンピックに限らず、こういうスポーツというのは、メディアの方々がいないければ、成し得ない舞台だと思っています。ですので、僕は大変感謝しています。ただ、プライベートな部分だけは、ある程度控えていただければ、という気持ちがあるのが正直な意見です。

小宮山 競技が終わった後、まだ滑っている選手がいて、そちらのことを考えて、「もつと静かに」というジェスチャーをしましたね。

清水 自分自身の立場にたつと、スタートラインに立ったときに、観客がうるさかったら集中できないのです。僕の千メートルが終わった後、観客の皆さんが僕に声援を送ってくれるこ

とは、すぐくうれしかったんですが、次の選手がスタートラインに立とうとしていたので、その場では静かにしてほしかった。そういう気持ちがあったので、「静かにしてください」というジェスチャーをしました。

村野賢哉 (NHKOB) 今度のオリンピックの中継を見ていて、スラップスケートがなぜ早く滑れるのかが疑問だったので、それをうかがいたい。

清水 僕自身は科学研究者ではなく、競技者なので、うまく説明できるかどうかわかりませんが、今までのノーマルスケートではかかとが溶接で固定されていて、氷を蹴る際に人間の力を伝える部分はつま先でした。つま先で蹴って、氷に大きい傷をつけて前に進んでいたのです。しかし、スラップスケートでは、かかとが離れることになって、つま先で氷を傷つけることはまったくなくなりました。つまり、摩擦抵抗が少なくなつたというのがおおまかな理由です。

野村正育 (NHK) 今回、五百メートルは二本滑ってその合計タイムで争う形になりました。前回のリレハンメルまでは一本勝負。二本滑ってどちらかいいタイムを取るという方式もあるようですが、競技者としては、三つのうちのどの方式が一番滑りやすいですか。

清水 三つの方法は、実際すでにいろいろな大会で行われてきています。僕自身は、今回のオリンピックで採用された方法がベターではな

いかという気がしています。やはり一本の合計、そして二日にわけることによって、面白が出てくるのではないかと思います。僕自身も初日トップに立ち、次の日のレースが楽しみでしたし、また周りの観客の方々も、レースに対して面白味が出てくるのではないかと思います。

韭沢嘉雄 (日経OB) お父さんは具体的にどういうところで厳しかったのでしょうか。亡くなられていなかったから、これだけの記録が出せたかどうか分からないというようなことをおっしゃった。その辺を、もう少し説明していただきたい。

それから、今日本の青少年が良くない方向にいつている。そういう若者に対して、何か言葉をお願いできればと思います。

●若者の良さも報じてほしい

清水 父は、スケートはもちろんですが、私生活においてもかなり厳しかったですね。まず、第一に周りの方々に対するあいさつ。礼儀をかなり重視といますか、そういうものをきちっとしなければ、スポーツも強くなれないぞ、ということはずつと言われ続けてきました。

亡くなって良かったと言ったら怒られますが、やはり父親がいることによって頼ってしまいう部分があったのです。練習メニューなど、いろいろなことを父親に考えてもらっています。

た。父親に与えられてずっとやってきた。

父親を失って、一瞬、これからどうしていいかわからないだろうと思いましたが、自分で練習メニューはとも考えられないのではないだろうか、とか。でもそこから、練習メニューやいろいろな面を自分で考えて、信念をもって進んでいくようになったんです。それが良かったと思っています。

最近の若者はどうだ、こうだといろいろな面で取り上げられていますけれども、表沙汰になっている部分というのは本当にごく一部だと思います。

今回オリンピックが終わっているいろいろな方々から、励ましのお手紙をたくさんもらいました。高校生がすごく多かったですけれども、いたいた手紙の内容を読みましても、今の高校生というのは本当にしっかりしているな、という気持ちがあります。新聞などに取り上げられているのはごく一部であって、全員が全員、ああいったものではない、と僕は訴えたいですね。だから、そういうしつかりとした考えを持っている高校生がいるというのを、メディアを通してもっと伝えてほしいと思います。

吉川彰（民放連） 清水選手は非常に脚力があると思います。スケートで、百メートル9秒5ちよつとですが、陸上の百メートルでは何秒くらいで走れるのか。さらに、スクワットではどのくらい拳がりますか。

清水 百メートルは走ったことがあります

ん。実際に走って測定しても、それほど記録は出ないと思います。なぜかといいますと、スピードスケートというのは、横の動きが入ってくるものです。ですので、内転筋など、陸上選手ではつかない筋肉が異常に発達するものですか、陸上で走った際には、その内転筋が邪魔をしていますが。言い方は悪いのですが、がにまたになって走ってしまふ。フォームとしてはかなりよくない形で走ってしまうので、記録はまず出ません。

スクワットは、練習の中では二百三十キロ、体重の三倍以上は挙げていますけれども、年に二回くらいです。でも、本気で挙げようと思えば、二百五十から六十は挙がると思います。

松本明男（日刊工業OB） 競技者としてのこれからの生き方をうかがいたい。あなたの二十数年の人生にとって今度の長野大会は、どういう意味を持ったのでしょうか。

それからもう一点。スケート靴というのは、選手にとつて、命だと思いますが、スラップに履き替えたのは、オリンピックのわずか三カ月前だということですか。普通は自分の競技の生命線を変えるには、相当の熟知期間があると思うのですが、三カ月で慣れる絶対的な自信があったのですか。

●表彰台で感じた物足りなさ

清水 このスラップスケートが出てきたのは、昨シーズンだったのです。選手全員が、現時点で使いこなしていません。僕自身も現段階では、百パーセント使いこなしているとは言いがたありません。その中の勝負だったわけですが、僕はだれよりも早く使いこなす自信はありました。それは、元のノーマルスケートのスケイティングに自信があったからです。スラップスケートでも絶対にいける、器用に使いこなせるという自信があったからです。

スラップスケートは、ノーマルスケートのスケイティングの基礎がしっかりしていれば、まったく問題ないスケート靴です。ですので、導入に迷いは多少はありましたが、それほど大きな動揺はありませんでした。

競技者としての生き方ということですが、僕にとつて今回のオリンピックは、ひとつの通過点ではないかなと思います。確かに競技者として、オリンピックは、アマチュアスポーツの最高峰の舞台です。そこで表彰台の真ん中に立つのは、スポーツ選手にとって夢であり、目標でもあると思うのです。

しかし、実際に今回、真ん中に立ったときに達成感があったのですが、何か物足りなさのよくなものを感じていました。

人としてやらなければいけないことはまだはつきりとは見えていないけれども、少しずつ方向性が見えてきたのではないかと思います。

例えば、今回のように、皆さんのおかげで成し得たオリンピック。そして報奨金。これも皆さんがいたからただのお金ですので、それをどう使っていくのか。報奨金というのは、人々のために、世の中の役に立てるべきお金ではないかと今は考えています。

上田正夫（日刊工業OB） スピードスケートの選手は自分でエッジを研ぐわけですが、清水選手も、自分で研ぐのですか。

もう一点。先程ノーマルスケートで基礎ができているから、スラップもすぐ慣れる自信があったとお話になりました。今度の清水選手の活躍をきっかけに、スピードスケートをする子供たちが増えてくると思うのですが、子供たちは最初は、どちらのスケートを履いて練習したらいいのでしょうか。

清水 エッジは自分で研いでいます。選手によって、特に女性の方は監督、コーチに研いでもらっているみたいですが、僕自身は他の人が研いだスケートでレースをしろ、と言われたらできません。感覚的に伝わってくるものがまったく違うからです。

今の子供たちがどちらを履けばいいかは、僕自身もわかりません。スラップスケートを履きたいという子供たちはたくさんいると思うので

すが、そこまでスラップスケート自体が、まだ普及していない。だから、今の時点では、まだノーマルスケートでいいのではないかと思っています。

川名宏（朝日新聞OB） 金メダルを取って表彰台に登られた翌日の新聞の写真をみますと、銀メダルと銅メダルの人はすごく大きくて、あなたは彼らの肩ぐらいいしかなかった。大きな人たち、体力的にも勝っている人たちに対抗するために、あなたが編み出したノウハウのようなものを教えていただきたい。

それから、ぜんそくをお持ちのようですね。そのぜんそくと、どんなふうに対抗してきたのか、あるいは仲良くしてきたのかをうかがいたい。

●人より多く努力と工夫を

清水 表彰台に登ったときは、肩じゃなくて胸くらいでした（笑）。気持ちの上でハンデを背負っていると思ってしまう。その時点で実際負けないので、僕の中では、身長差がハンデになっていると思ったことはほとんどありません。確かに昔は、身長がないから負けたというのを理由の中に挙げていましたけれども、それはあくまでも理由であって、やればできるといふのを今回、証明できたと思います。

心掛けていることは、人よりも多く何かをやっていること。例えば、ストレッチ

体操にしても、人と違うことをやっていく。同じことではなくて、いろんな方法を自分で見つけていって試行錯誤してみる。そういうことが大切ではないかなと思います。

ぜんそくは小児ぜんそくから続いています。ぜんそくだけではなくて、アレルギー体質でもあります。ハウスダストとダニがあるところへ行きますと、くしゃみ、せき、なみだが出るのですけれども、練習や運動をすれば、ぜんそくは出ないのです。ただ、長期休養とか、風邪をひいたり体調を崩したりしますと、やはり発作が起きます。一度発作が起きてしまうと、次のトレーニングがまったくできないんですね。息が苦しくなってしまう、練習ができない状態が続きます。

その中で、どういうふうにつき合ってきたかといいますと、肺に負担をかけて肺を強くしてきた。そういう訓練をしてきました。肺がある程度苦しくなって元に戻って、また苦しくなって元に戻ってという繰り返しによって、肺というのは強くなるんです。そうすると、ぜんそくは出てこなくなります。

昔は、自分はどうしてぜんそくなんだろうと思いましたが。ぜんそく自体に恨みみたいなものを持ちましたけれども、今では友達としてうまく付き合っていくしかないんだという気持ちでいます。

中山司朗（テレビ朝日） 大会前に例の吉村

会員異動 (1997年4月～98年3月)

月	プレス会員									法人・個人		特別 賛助 会員	全 会 員			
	法人	基本	個人 A	個人 B	個人 C	個人 D	名誉	対前 増減	対前 増減	賛助	個人		合 計	対前月増減		
	(社)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(社)	(人)	(社)	(人)	(社)	(人)	(社)	(人)	
97.4	150	821	585	74	292	873	15	±0	-14	61	196	54	211	2,910	-3	-20
5	150	822	587	75	294	881	15	±0	14	60	192	55	210	2,921	-1	11
6	150	821	587	75	295	883	15	±0	2	60	192	55	210	2,923	0	2
7	151	823	590	75	293	879	15	1	-1	59	189	55	210	2,919	0	-4
8	151	819	598	74	294	881	15	±0	6	59	190	54	210	2,925	0	6
9	151	819	598	74	294	880	15	±0	-1	59	190	54	210	2,924	0	-1
10	151	820	584	74	288	881	15	±0	-18	58	187	54	209	2,903	-1	-21
11	151	818	581	75	288	881	14	±0	-5	58	186	55	209	2,898	0	-5
12	151	818	583	77	288	883	14	±0	6	58	187	56	209	2,906	0	8
98.1	151	818	583	77	284	879	14	±0	-8	58	187	55	209	2,897	0	-9
2	151	817	581	77	286	883	14	±0	3	58	187	56	209	2,901	0	4
3	150	815	573	77	287	885	14	-1	-7	58	187	55	208	2,893	-1	-8

県知事の「みずすまし」発言がありました。あれを聞いたとき、どう思われたか。

もう一点。あのスケートリンクの氷を作っていた高野さんなど、影になっている人たちに對してどのような考えをもっていらつしやるか。

清水 「みずすまし」発言のときは、僕には日本にいませんでした。ですから、日本ではすごいことになっているよと、周りから聞きまして、考えたんです。あれは、「あめんほう」のことをいいたかったのかな、と(笑)。確かに、表にあげられるイメージは悪いほうじゃないのですが、別に悪いイメージではないなと思います。ですから、僕は悪いイメージはまったくありません。

リンクを作った高野さんはじめたくさんの方々がいないと、もちろんオリンピックは成り立たなかったし、スケートもできなかった。氷を作る人々がいて初めて、僕らが氷の上を滑れるという気持ちでいます。オリンピック前は、選手個人としてたくさんの方がまを言っていました。良かったです。あの氷でレースをできたことを感謝しています。

佐沢利和(産経OB) 例えば、五百メートルでは、ずっと精一杯走り続けるのか。そうではなくて、表現は悪いが、どこかで一息入れるというのか勝負に勝つ「コツ」といったものがあるのでしょうか。私は競馬が好きでよく見る

のですが、競馬も途中で息をいれながら馬を走らせます。金メダルを取る人は、途中で息を抜く「コツ」を人為的ではなくて天性で持っているような気がするのですが。

清水 僕は競馬は詳しくないのでわからないのですが、やはり、一呼吸置いていますね。ただ、それをオリンピックという最高の舞台でやるのは難しい。うまくできないんです。人というのはやはり、最高の舞台で、力を発揮しなければいけないというときには、どうしてもそれを忘れてしまう、できなくなってしまうと思うんですが、僕は今回、冷静に判断できたと思います。

内藤茂(NHKOB) 滑っているときは何を考えていらつしやるのか。また、あなたが人間として一番大切なことは何だと思っていらつしやるか。今の政治家をどう思っていらつしやるのか。この三点をうかがいたい。

清水 滑っているとき、長距離の選手はいろいろなことを考えるみたいですが、短距離の選手はほとんど無心で滑っていますね。考えるとしたら、次のコース取りとか、あそこのポイントを目指していくとか、そういうことしか考えていません。

一番大切なことは、人を思う気持ちではないでしょうか。

政治家のことは、評論家ではないのでなんとも言えません。

(文責・長谷川)

プロフィール

◇個人D会員（五十音順）

いかにもハリウッド映画的な作品である。

ハリウッド映

画の特徴の一つは、エンターテインメント性に富んでいること

だ。人を楽しませる術にたけていて、観客を退屈させない。この作品も、観客をハラハラ、ドキドキ、しんみりとさせ、二時間十八分を長いと感じさせない。その手慣れた手法は見事である。

舞台はニューヨーク。ジャック・ニコルソン扮する独身の

人気恋愛小説家と、ヘレン・ハント演ずる、息子と暮らすシングルマザーのウエートレスのラブストーリーである。互いにひかれていながら、異なるライフスタイルや家庭の事情、プライドや傷つくことへの恐れがじゃまをして、なかなか愛情を告白できない。

試写会



が、行き違い、誤解、怒りのぶつけ合いといったトラブルの末に、ついにめでたしめでたしのハッピーエンドとなる。「率直さ」「優しさ」こそ、人の心を動かし、恋で勝利者となるための秘けつだ、ということか。

最新の米国映画とあっ

て、この国の市民の生活スタイルや風俗が一種の小道具のように巧みに取り入れられている。極度の潔癖性、ゲイ、小児せんそく、ペット（犬）……。まるで凝縮された米国社会の一断面を見る思いがする。

面白い作品ではある。が、米国紙で「今年最大の傑作」と評されたうえ、さきの第七十回アカデミー賞で七部門にノミネートされ、ニコルソンが主演男優賞、ハントが主演女優賞を受賞したと聞くと、近ごろの米国映画はそんなに不作なのか、という気もする。

個人D会員（朝日新聞OB）

岩垂 弘

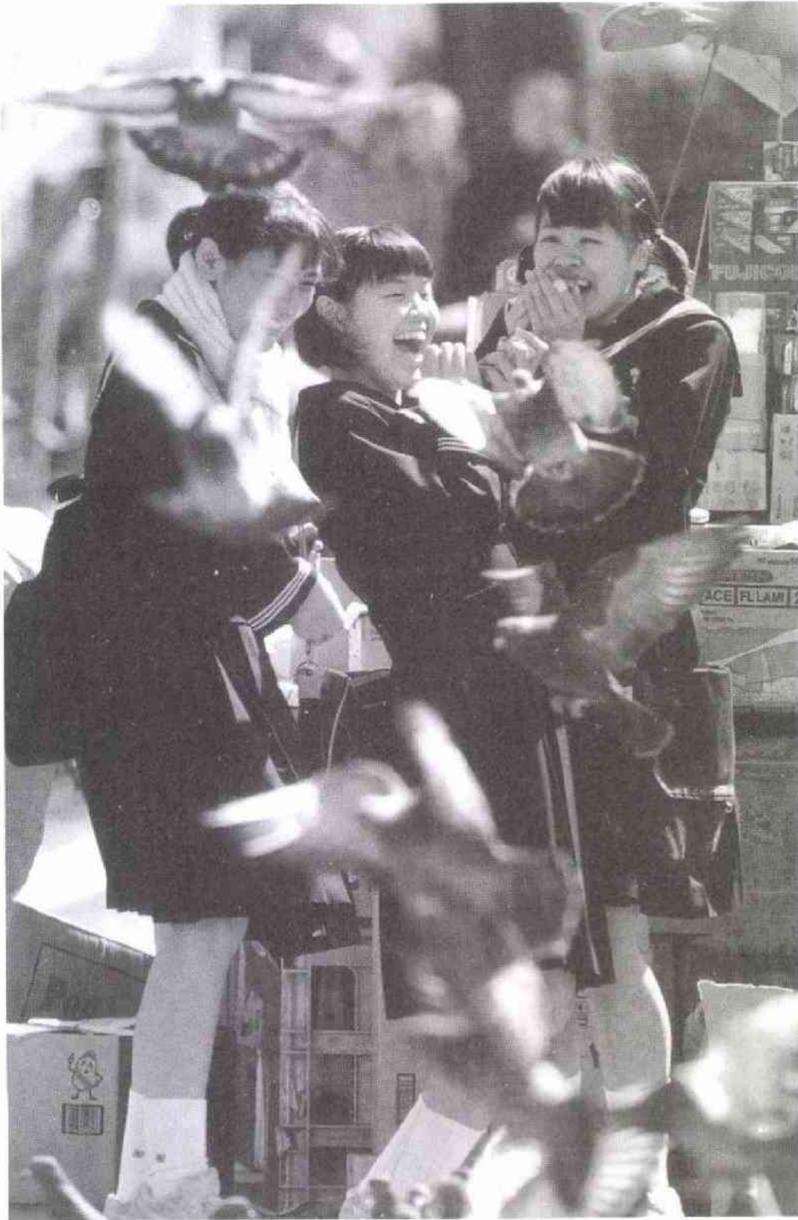
（三月一日付入会の個人D会員、法人賛助会員、特別賛助会員の方々です。）

恋愛小説家

写真部

写真
横山 聡

(一九八三年読売新聞入社 名古屋総局
パンコク支局を経て 現在 本社写真部)



東京・上野公園で (3・18)

春の光の中で

中学時代はもう半世紀近い昔のことになる。還暦記念の泊まりがけクラス会があつて思い出の海岸を再訪した。クラスメートたちがしきりに懐かしがつているのに、自分にはほとんど記憶が残っていないのが不思議だった。

幹事がコピーして配った当時の写真の中に、暗いおびえた表情の私があった。あのころ、必死になつて劣等感と戦つていたので。友人たちがまぶしくて目を向けられなかった。彼らも同じように悩み、もがいていたに違いないのだが。

刺激にあふれ、欲望にブレーキをかけるのが難しい今の日本で、このクラスが中学生を送つたらどうなるだろう。シンプルだったあの時代でも、私たちは卒業式の後、真新しい校舎の窓ガラスを割っていたのだから。

修学旅行で見せたこの生命力にあふれた素晴らしい笑顔。ナイフやいじめとは無縁のように見える。この笑顔の裏にも、この世代を突き動かす荒々しい混沌のエネルギーが潜んでいるのだろうか。

元中学生は自分の暗い衝動の時代を忘れて、中学生におびえ続ける。

(秋山 民雄)

ゴールデンウィークにラウンジの工事

夏のリノベーションの際もラウンジ側を使えるようにしておくため、工事を前倒しして、ゴールデンウィークに行います。そのため四月三十日(木)、五月一日(金)、同二日(土)の三日間、宴会場とレストランを臨時のラウンジとして使用していただくこととなります。レストランの営業は通常通りです。

ご迷惑をおかけしますが、よろしくご協力願います。

宴会・土曜割引をご利用ください

すでにお知らせしましたが、会員のみなさんにクラブ施設をより有効に利用していただくため、四月一日から貸室料金に宴会割引料金を設定しました。一人当たりの飲食料金が三千円以上になる場合に各部屋とも15%引きが適用されます。土曜日の貸室料金は、飲食を伴わない場合を含め、終日15%引きです。

会員の方々が関係する同窓会、クラス会、出版パーティーなどにより利用しやすくなりました。会員の特典をご活用ください。

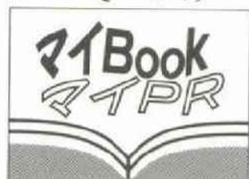
『経済報道 検証・金解禁からビツクパンまで』

高橋文利(朝日新聞OB)

本書の狙いは三点あります。第一は、メディアが政策決定において果たす役割です。第二は、読者にメディアの本質について幅広い知識を持つてもらうことです。第三は、メディアが抱える「負の遺産」を克服し、再生のためには何が必要かを考えました。

自分自身が論説室にいた当時のことや、再販制度の維持を批判したりしているの
で、「いまさら何だ」と言われそうですが、活字メディアのオピニオン機能に期待しているからだと思ってください。

(中公新書 700円)



『現代企業の条件』

長谷川洋三(日本経済新聞編集委員)

企業を取材して感じることは、マクロ指標ではたしかに大変な経済不況だが、現場では着実に変化が起きていることです。インターネット革命という言葉一つをとっても、もはや総論の時代ではありません。ジャパンバッシングとやゆされても、日本の技術なしにはマイクロソフト

のウィンドウズは動かない。この大変な時代に光り輝く企業、世界に発信する経営者がいることをぜひわかってもらいたい。海外比較と百年の企業浮沈を座標軸に企業生き残りの条件をわかりやすく解説しました。

(丸善ライブラリー 740円)

「マイBOOK マイPR」をスタート

今号から、ご惠贈いただいた会員の新聞書を紹介する「マイBOOK マイPR」欄がスタートしました。自著の内容や狙いを、ワンポイントPRしていただく予定です。ご愛読ください。

会員現況 法人会員 一五〇社 基本会員 八一六人 個人会員 一、八三三人 法人・個人賛助会員 五七社 一八五人 特別賛助会員 五四人名誉会員 一四人 計 二〇七社 二、九〇二人

四月の行事(6日現在)

- 16日(木) 午前11時~12時 スカルファロ・イタリア大統領記者会見
- 17日(金) 正午~午後2時 斎藤十朗参院議 長昼食会
- 29日(水) 午後1時~1時45分 シラク・フランス大統領記者会見

(行事案内電話) 〇三二二五〇三二二七六四

会報委員会

- 委員長 住田良能
- 委員 田村欣也 伊波新之助 大空博 桝谷義道 和田千年 塚越喜昭
- 連絡 長谷川和子 本庄五月
- (電話) 〇三二二五〇三二二七二二
- (FAX) 〇三二二五〇三二二七二二